

通信放送融合と放送制度のあり方

－「放送を巡る諸課題に関する検討会」分科会での 議論と背景－

千葉大学名誉教授
多賀谷 一照

一、 「放送を巡る諸課題に関する検討会」 分科会での議論

放送のサービス高度化

- 4K8Kやハイブリッドキャストなど放送サービスの高度化
 - 周波数の有効活用は課題
- 現状は、放送の社会的影響力が大きい
 - ただし、将来にわたってはネットの影響力が拡大するため、対応が必要。
- 番組の特性
 - 多数の者が一度に視聴するキラーコンテンツなら放送
 - マイナーな番組なら通信の方がよい

放送の社会的役割

- 放送が持つ社会的役割の大きさ
- 災害時の報道、地方からの情報発信や取材力の維持の必要性
- ニュースは映像が良いとは限らない
 - ポータルサイトのニュース等は信頼を得ており、「ネット」をひと括りにして議論すると、ネットの力を見誤ることになる

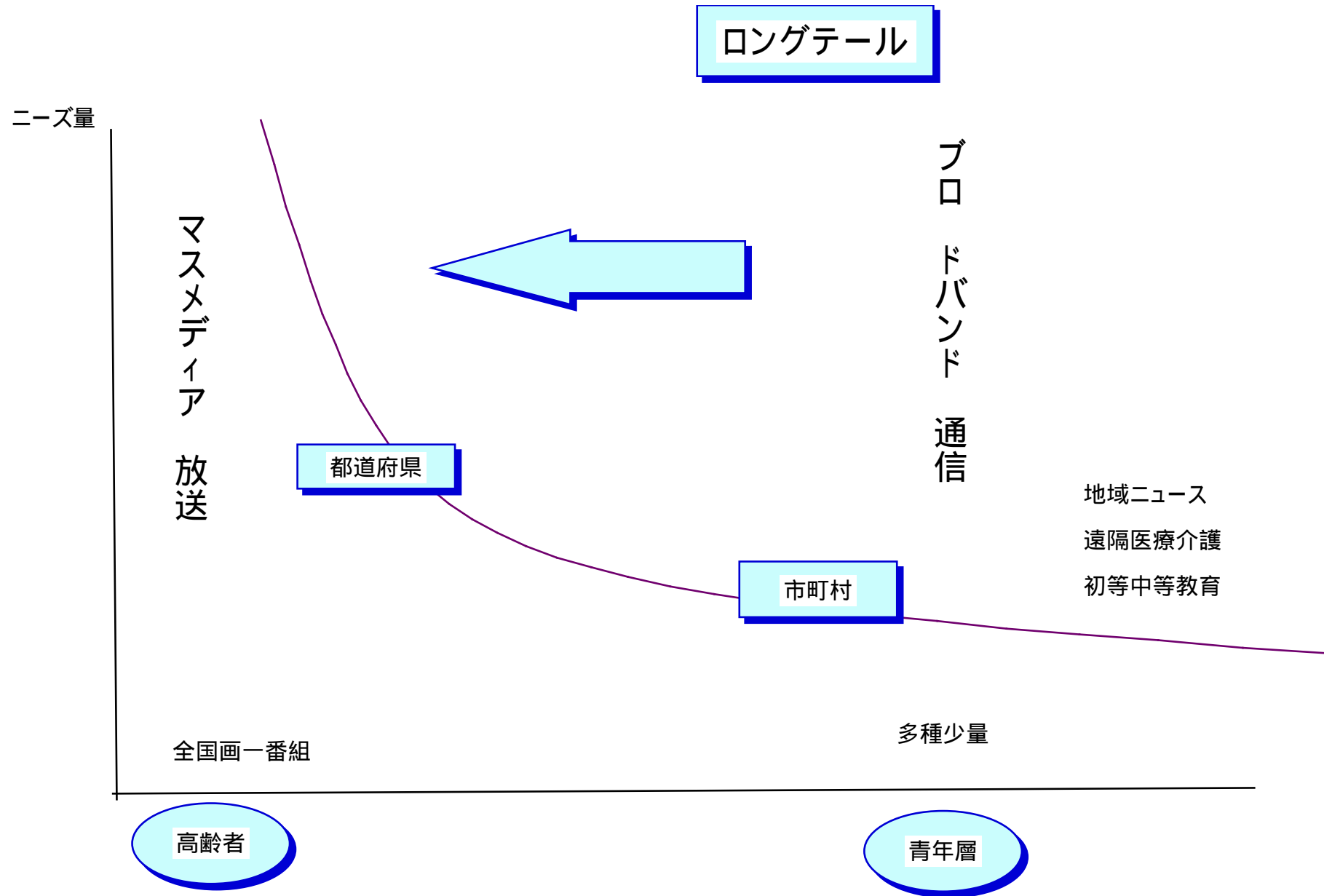
ネットワーク・インフラ

- 現状では、放送番組のネット配信による完全な置き換えは、技術面等で不可能。
- 経済合理性の観点からは、IPネットワークで放送と同等のサービスを提供していくことは簡単ではない。
 - 現行の光ネットワークにゆとりはない
 - マルチキャスト配信のような仕組みが通信全体に入っていない限り、有線と無線は依然として異なるものとして取り扱うべき
- 通信側の技術が大幅に進歩している状況で、最適なコンテンツ伝送のあり方について議論が必要。

放送の周波数の有効活用

議論を開始

二、背景



国による放送ネットワークの相違

- 日本 (ハードソフト一致型)
 - 地上波 東京キー局を中心とする系列ネットワーク
 - 衛星波 主たるチャンネルはキー局系列
- アメリカ
 - 地上波 日本とやや類似
 - ケーブル・ネットワーク
 - 地上波ネットワークとは独立にネットワークを構築
 - 衛星 DTV 地上波とは関係なしに番組提供サービス
- ドイツ
 - 放送はケーブル(ドイツテレコム)経由が中心 ハードはドイツテレコムが管理
 - 番組はラント単位、もしくは衛星からケーブル局に流される
- イギリス
 - ハードとしての送信設備は放送局以外が主として管理
 - 民間放送事業者 ソフト部分が中心
 - 衛星 スカイ(地上波とは関係なしに番組を提供)

ハードソフト一致の課題

- 放送用ハード

- 地上波(ローカルの場合) 局舎 + 送信塔(一社あたり100基前後) + 中継設備
- 衛星 地球局(アップリンク用) + 衛星のトラポン

- 4 K、8 K

- 衛星 対応可能
- 地上波
 - 各局ハイビジョン1本伝送できる周波数のみ割当
 - 4 K, 8 Kは現状送信不可能
 - 衛星周波数を持たないローカル局にとって存亡の危機
 - 圧縮して地上波で送る技術を模索

4K, 8K時代のハード・ソフトのあり方

- 多様な回線の選択可能性
 - 中継回線
 - 現在でもマイクロもしくは通信回線を利用
 - 多重化
 - 最終ユーザーへの提供部分
 - 総てを光ファイバーに移すのではなく、複数のルートを選択
 - 光ファイバー
 - 地上波 ケーブル回線
 - 衛星回線
- 番組流通の多様化
 - 番組の系列的提供
 - 番組販売(番販)
 - 番組販売(番販) 諸外国は番販として、映像コンテンツを市場流通させる

ハードソフト分離論とその時代的背景

- 2000年代のハードソフト分離論
 - 通信回線のブロードバンド化
 - 既存の放送コンテンツを通信回線で送信する可能性を論議
 - 法制度としては、ハードソフト分離を可能とする
- 今日の課題
 - OTTの登場
 - Over the Top (GAFA, Netflix, Huluなどのハイパージャイアント)
 - 通信インフラ・放送インフラを問わず、頭ごなしにインターネット経由で番組やコンテンツを配信するサービス
 - フリーミアモデル 広告を用いるなどして、ベーシックサービスは無料
 - ファーストレーンやゼロレーティング(課金フリーサービス)を通じて、ある意味ハードソフト一
致型のサービスを通信側から構築しつつある
 - 国内事業者の課題
 - 通信事業者 土管化し、付加価値をOTTに吸い上げられる可能性
 - 放送事業者 広告収入・コンテンツ作成能力を奪われる可能性
 - ハードソフト分離だけでは問題は解決しない

映像伝送の三形態 (EU、フランス)

	具体例	規律のあり方
番組表を作成して行う伝送(リニア型)	放送(リニア型)	放送として規律 国によっては内容規律に及ぶ
視聴覚サービス	ノンリニア型 Dazn ネットフリックス オンデマンド放送	届け出制 ミニマム規律 青少年保護 有害コンテンツ規制
双方向映像通信	スカイプなど	規律なし